

有害鳥獣のはなし(理事長 阿部克也)

最初の寄稿文なので少しまじめな話を。平成 22 年度の有害鳥獣による農業被害は 240 億円。駆除活動の促進や電気柵の普及により被害額は徐々に減少し、平成 30 年で 157 億円。そこからは頭打ちで、令和 4 年でも 156 億円。一方、対策費には 100 億円かかっている、毎年 250 億円以上の損失があるということになります。内訳をみると猪の被害が



が増え、ここ数年はこの 2 種類で 3 分の 2 程度を占めています。豚熱などで猪の数が減少傾向にあること、鹿の生息数は頭打ちであり、かつ猪より広範囲を動き回り生息域をより拡大していることなどが考えられます。個人的には鹿が食べる農産物の種類が年々増えていること、言い換えれば、食に対するシカのフロンティア気質が大きな要因と考えています。長野県単独では令和 4 年で 7.3 億円。また、林業被害額では全国で 5 億円となっていますが、苗木の食害はほぼ網羅されているが成長した木の皮剥ぎ被害はその多くが把握されていない、という数値と思われます。

では、どのくらい駆除すれば生息数を減らしコントロールできるようになるのか。鹿は 50%、猪は 70% 獲らないと減少しないとされています。令和 5 年の推定生息数は鹿が 246 万頭なので目標は 123 万頭、猪が 78 万頭なので目標は 55 万頭。これに対して駆除実績は鹿が 72 万頭で猪が 52 万頭。猪はいい線行ってますが鹿は全く足りていない状況です。そもそもなぜこれほどまでに被害が増えたのか？一番大きな要因はハンター不足と考えられています。遺伝学的な研究(図)から、次のようなストーリーが有力視されています。「人類が日本列島に進出してから農耕が始まるまで人間の狩猟活動が対象となる獣の生息数をコントロールしていた。ナウマンゾウやヘラジカは繁殖力や適応力が低く絶滅した一方で、鹿や猪は生き残りある程度の数でバランスしていた。農耕生活にシフトするにつれ生息数は増加するが、人間が狩猟をやめたわけではないので、徐々に頭打ちになりバランスした。このときの生息数は現在と同レベルと推測されている。江戸時代、鉄砲が一般にも普及することで生息数は多少減ったが大勢に影響はなく、その後明治時代が訪れることで、農地開拓に伴う乱獲が起こり、生息数は激減した。戦後はこの乱獲を反省し禁猟や保護政策がとられ、生息数が急激に回復し現在に至る。」つまり、戦後～80 年代くらいまで被害が少なかったのは、一度乱獲で生息数が激減したからなのです。私の住む美麻地区でも、鹿や猪が現れ始めたのは 21 世紀に入ってからで、それまでは害獣と言えバウサギやキツネ、サルでさえ見たことがなかったそうです。さらに現在において被害が増加している他の大きな要因として、中山間地での過疎・高齢化と地球温暖化が挙げられます。他にオオカミの絶滅、融雪剤(塩化カル)、そして我々にも関係のある、戦後の針葉樹林の拡大と放置

有害鳥獣のはなし (阿部 克也)	 1
森づくりについて (会員 宮川さん)	 3
活動報告	 4

SFW 通信に意見・感想を下さい。SFW の活動に限らず趣味や日常のちょっとしたことなど《フリートーク》を投稿頂けるととても嬉しいです。

メルマガ(メーリングリスト)

sfw-mail@sfw.or.jp

皆さんからの投稿は会員全員に配信されます。

事務局アドレス(問合せ)

mimizuku@sfw.or.jp

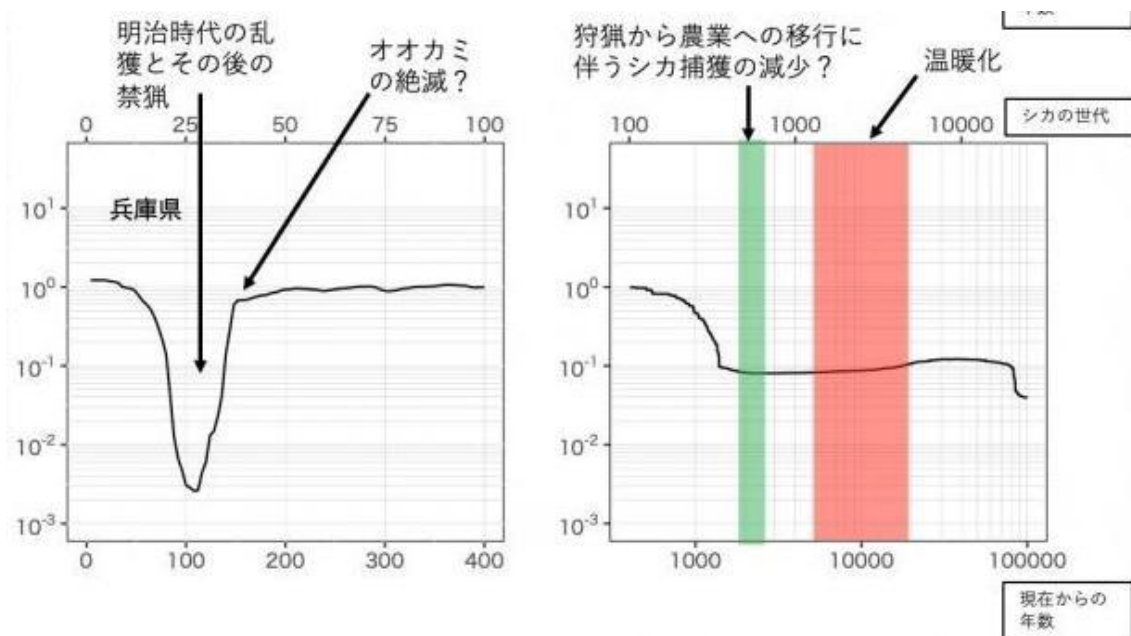
事務局よりお知らせ

○ざんどこ伐採木(薪用)の頒布ですが、今までの軽トラすりきり1台500円では安すぎるという事で、1台2000円となりました。枝はタダなので、ご自由に持って行って下さい。

○11月15日、久しぶりに森カフェ開きます。ざんこの森の中で焚火にあたりながらコーヒーいかがですか？

詳細はHPイベントに。

など、複数の要因が考えられています。江戸時代以前と比べて生息数は同程度だとしても、森林面積、特に餌場となる広葉樹林の面積が減少しているため、森林での生息密度は高くなっているはずであり、現在のほうが当時より獣害が深刻化していると予想されます。



最後に現状の有害鳥獣駆除のシステムについて述べます。市町村長が鳥獣の種類別に全体の予定駆除数を指定して従事者（猟友会）に駆除を委託します。期間は市町村により異なりますが、長野県内ではほとんどが猟期（県内の鹿・猪は 11/15-3/15）を除いた 1 年中です。ただし、市町村によっては猟期も駆除期間にカウントする場合があります。サルについては駆除ではなく県が実施する管理捕獲、熊は保護管理の対象だったのが昨年度から指定管理鳥獣になり駆除が可能になりました。しかし熊の駆除についてはまだ法改正や議論が不十分であり様子見段階というのが現状で、動物愛護団体等からの苦情もあるため市町村により対応に温度差があります。被害が出てから檻罠での捕獲・駆除を試みる消極的なケースがほとんどです。ちなみに猟期での熊の狩猟では、罠は使えず銃猟のみが認められています。

駆除のための鹿・猪の捕獲方法は、くくり罠や檻罠、銃による巻狩り（事前に申請・許可必要）があります。罠猟の場合、毎日現場の見回りが必要であり、基本的に早朝に行うため非常に大変な仕事になります。捕獲・駆除した場合、市町村により異なりますが、従事者（猟友会）は写真などの証拠書類を提出し、



人が熊を肉食化させている？

1 頭当たり数万円の報奨金を受け取ります。駆除された屠体は山林に埋める、焼却、自家消費、ジビエ処理施設に搬入、などにより適正処理されます。しかし、規則を守らずに山林に放置するケースも多く、このことが熊や猪の肉食化を促し問題となっています。

有害鳥獣駆除の最大の問題はハンター不足ですが、市町村により温度差があり、システムもバラバラなことも大きな問題となっています。特に北信地域では獣害が拡大したのが最近であるため、ほとんどの猟友会はいまだに趣味のハンティングや射撃に活動の重点を置いており、美麻猟友会のような獣害対策に特化した団体とは意見や価値観に大きな隔たりがあったりします。さらに、たいていの市町村で複数の猟友会（支部）が存在し、過去のトラブルなどでお互いに仲が悪かったりすることもしばしばです。有害鳥獣駆除により農林業被害を抑制するためには、猟友会だけに頼らない行政主導の駆除システムを新たに構築し直す必要があると強く思います。次回はジビエの話ということで。

宮川さんが「森づくり」に対する思いを寄稿して下さいました

会員の宮川功と申します。



長野県生まれで長野県育ち、29歳の時に林業組織に勤務し、33歳から特殊伐採をメインに自営業を始めて11年が経ちました。

私が樹木の作業を行う上で大切にしているのは「安全」です。

そう言う私ですが、実は自身のケガを経験しています。また、過去にはかつての仲間の事故も耳に入ってきました。

ケガや事故は経験する必要は全く無いです。事が大きくなればなるほど失うものが大き過ぎます。

とにかくこの業界は事故の率が高いです。仮に作業頻度が少ないとしても、まずは”明日は我が身”自分事としてとらえるところからでしょうか。

木を伐倒するにせよ、チェーンソーの刃を切り込む前に一呼吸置き、唯一無二の自然のものと対峙している事を意識して、想像力を最大限働かせて様々なケースを予測する。気象や時間に追われるようなときは、ダメな時はダメときっぱりあきらめる。体調はもちろん精神も大切。自分や仲間が落ち着いた精神状態で作業に臨める環境に身を置くこと。今はそんな身構えで私は作業しています。

今の林業の課題であるなり手不足。林業や山仕事は私たちに続くなり手がいないと、山は荒廃していきます。荒廃したら何がいけないのか？



左の写真はサクラの木です。伐採だけでなく剪定もやります。

伐採には伐採の大変さと必要技術がありますが、大木の剪定は伐採を超える難しさや技術があると感じています。

公共の樹木であっても、人の都合ばかりが優先されがちな近年ですが、木の都合も考え樹形を作っていく仕事にもやりがいを感じます。



クレーンを使った伐採風景

物にあふれた便利な社会で、山の存在を身近に感じなくても不自由なく生活ができると思います。

けれどその生活は実は、山、川、大地、海の自然の上に築かれているのであって、どんなに都会であっても自然と繋がっているのであり、（自然は）目を向けるべきもののなのです。

だから、私たちが山で「安全」で「魅力がある」山づくりをすることで、山を維持する重要さが伝わり、目を向けてもらって、仲間が増えていって後世に繋ぐことが未来の山づくりになる。その為の第1歩は、小さなことでいいんです。私は大きなことができる人ではありません。だから、何年か先に私の次に同じ山に入って働く人が働きやすいような山にしてケガ無く帰る、それで良いと信じています。

令和7年度(2025年1月~26年3月)活動の途中経過報告



1月 豊野西小学校林(12.5日) ぜんどこ森づくり(14日) 松ヶ丘小学校林(3日)

2月 豊野西小学校林(1.5日) 広徳中学校林(4.5日) 松ヶ丘小学校林(6日) 三本柳小学校林(1.5日) ぜんどこ森づくり(12.5日) 岩草文化祭 森林づくり会議



3月 ぜんどこ森づくり(26.5日) 通常総会

4月 ぜんどこ森づくり(36日) 七二会作業(4日)

5月 昭和小学校林(7日) ぜんどこ

森づくり(5日) 岩草作業(6.5日)

6月 松ヶ丘小学校林(6.5日) 高原学校(浅川小・三輪小・昭和小・緑ヶ丘小 計22日) ぜんどこ森づくり(18日) その他(0.5日)

7月 小川小学校林(1.5日) 松ヶ丘小学校林(2日) 高原学校(古牧小・芹田小・鍋屋田小・計8.5日) 交流集会(準備含19.5日) 岩草作業(5日) 打合せ等(1.5日) 環境フェア(4.5日)

8月 岩草作業(2日) ぜんどこ森づくり(5日)

9月 軽井沢スケートクラブ森林体験(9日) 松ヶ丘小学校林(1.5日) ぜんどこ森づくり(13日) 高原学校(城東小・真島小・湯谷小 計9日)

10月 長野西高校中条校学校林(2日) 松ヶ丘小学校林(6日) ぜんどこ森づくり(24.5日) 森林フェア(5日) コープながの交流会(6日)



9月には出しているはずの280号がなぜか11月に。早めに原稿下さった阿部さん、宮川さん。申し訳ありません。

SFWのインスタスタートしました。下URLをクリックしてインスタやっている人はフォロー投稿しましょう。インスタやっていない人もこの機会に登録して始めてみてはいかがでしょうか！

https://www.instagram.com/npo_sfw?igsh=NWpla2d4bz12aHZh

ご意見、ご希望などありましたら、右連絡先をお願いします。

NPO法人 信州フォレストワーク

〒388-8007

長野市篠ノ井布施高田276-6

携帯電話: 090-2798-1203

e-mail: mimizuku@sfw.or.jp

URL: <http://www.sfw.or.jp/>



